

枝幸町におけるケアシノスリの越冬記録

村山良子

枝幸町文化財保護委員会 〒098-5823 北海道枝幸郡枝幸町三笠町1614-1

調査の経緯

タカ科ノスリ属ケアシノスリ *Buteo lagopus* (Pontoppidan, 1763) は、主にユーラシア大陸極北部やオホーツク海北部沿岸域、カムチャッカ半島や北アメリカ大陸北部の広く開けた草地等で生息繁殖する。冬季は中緯度地帯で過ごし、日本へは主に北日本や日本海沿岸に冬鳥として観察されるがその渡来数は少ない(吉井, 1988)。

道北地方では10月下旬からサロベツ原野で観察され(富士元, 2005), 浜頓別町(村山良子・小西敢による確認, 2009. 10. 24)でも姿を観ることが出来る。さらに道内各地, 特に道東地方で毎年観察されていることから枝幸地方を通して推測されるが, 筆者及び地元(鳥仲間)は30余年, 当町内で出会う機会にほとんど恵まれなかった。滞在には不適地と考えていた枝幸町で2011年12月から2012年3月まで本種の複数の越冬を確認したので報告する。

観察記録

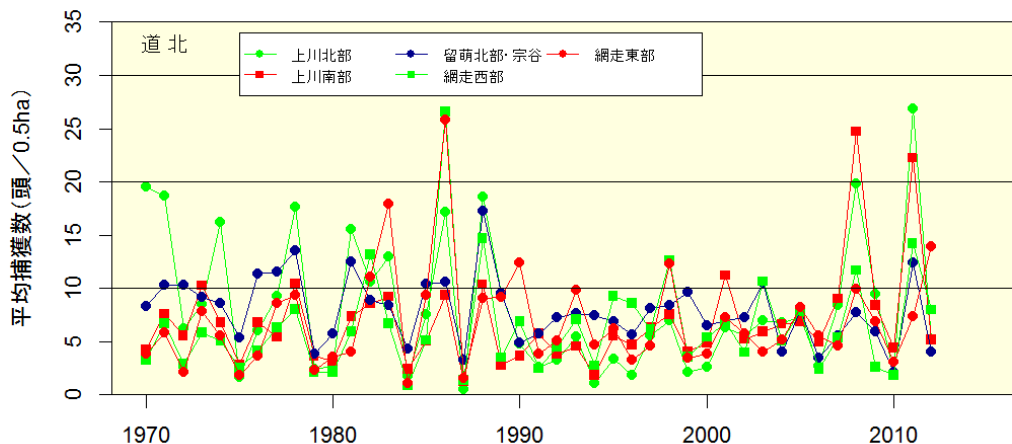
2011年12月2日, 枝幸町北部の目梨泊地区を流れる「素雪の沢」近くの国道238号線沿いで, 筆者はトドマツ樹冠に留まるノスリをケアシノスリと誤認して探索を始めたところ, 幸いにも飛来が現実となり, 2011年12月10日には3羽が観察された。この後は枝幸町市街地、岬町の千畳岩入口付近から北部海岸の野近志, 問牧付近までの国道沿線にある電柱や携帯電話電波塔, 樹木で観察を続けることができた。観察期間は2011年12月10日から2012年3月10までである。筆者, 朝倉克美(枝幸町文化財保護委員会), 小西敢(浜頓別町水鳥観察館)の3名による観察を行い, 期間中の撮影記録は18回に達した。

ケアシノスリは全長約55cm前後, 夏鳥として渡来する類似種ノスリ *Buteo buteo* よりやや大きく白と黒のコントラストが際立っており, 尾羽に黒い帯があることや脛が羽毛に覆われていることで識別される。

極北の生息地で, ケアシノスリやシロフクロウ等の好餌となる野ネズミは3~4年周期で急激に増減することが知られ, 日本への飛来数にも影響しているといわれる。一方, 枝幸町地方における野ネズミの増加情報が昨秋に農家からもたらされている。また, 独立行政法人北海道総合研究機構林業試験場(以下, 林業試験場)の調査記録が同場のホームページにて公開されている(グラフ1. 図1.)。

残念ながら図1. では枝幸町・浜頓別町・猿払村は捕獲数未記録としてデータが無いが, 周辺域が極めて高い数値を示していることから, 枝幸町においても相当数のエゾヤチネズミの繁殖が推測される。また, 雪解け後に現れた樹木下層部へのネズミによる食害(写真1.)が町内の各地で確認されており, ケアシノスリの採餌条件が良好だったことがうかがわれる。以上のような理由から, 枝幸町において複数による本種の越冬を記録することができた。

写真記録でも1月24日, ケアシノスリが野ネズミを捕らえていることを確認した。さらに2月11日には野近志海岸で標高約30mの丘陵頂部の上空2m程を停空飛行し, 眼下の海岸へハンティングする体勢の個体にも出会った。越冬中の本種の生き生きとした生活がうかがえた次第である。



グラフ1. エゾヤチネズミ平均捕獲数の年度推移 (林業試験場ホームページより転載)

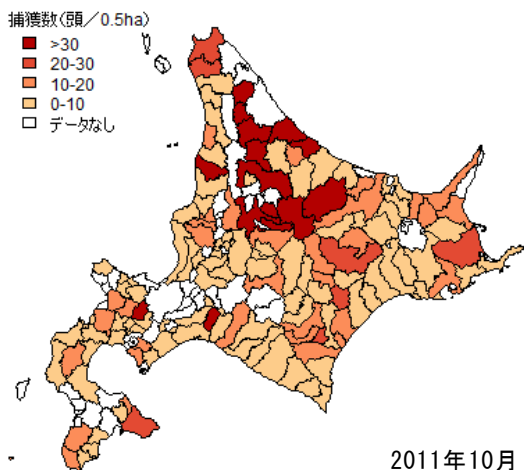


図1. エゾヤチネズミ捕獲数の多かった市町村 (林業試験場ホームページより転載)



写真1. エゾヤチネズミの食害を受けた樹木 (枝幸郡枝幸町下幌別, 2012年5月撮影)

し、今後の課題とした。

謝 辞

本報告にあたり、朝倉克美氏 (枝幸町文化財保護委員)、児玉仁志氏 (日本野鳥の会道北支部)、小西敢氏 (浜頓別町水鳥観察館) に写真、情報の提供をいただいた。また、富士元寿彦氏 (幌延町) には個体識別の判断をしていただき、清水一氏 (林業試験場道北支場長) には野ネズミに関する貴重なご教示を賜った。ここに明記して感謝申し上げる。

観察回数のない筆者にとって、個体差の大きい本種の雌雄と年齢を写真で識別することは困難であったが、喉から胸の縦斑が太く黒い個体(A)と細く薄い個体(B)、さらに別個体(C)を確認した。一方向の写真だけで断定するのは疑問が残るが、A~Cの3個体については近隣の浜頓別町や中頓別町でも観察されているので、少なくとも3個体が枝幸地方で越冬していた可能性が高い。

現段階で一般的なタイプの亜種ケアシノスリ *Buteo lagopus menzbieri* 個体Aを雄・亜成鳥、個体Bを雄・成鳥、個体Cを雄・成鳥と仮識別

参考文献

- 佐藤雅彦・小杉和樹, 2012; 利尻島におけるケ
アシノスリの記録2例. 利尻研究31.
- 高野伸二, 2007; フィールドガイド日本の野鳥
増補改訂版. 財団法人日本野鳥の会
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000; 日本鳥類目録
改訂第6版. 日本鳥学会
- 富士元寿彦, 2005; 原野の鷺鷹. 北海道新聞社
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男, 1995
; 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版
- 山階芳麿, 1941; 日本の鳥類と其生態第2巻. 岩
波書店
- 吉井正, 1988; コンサイス鳥名事典. 三省堂

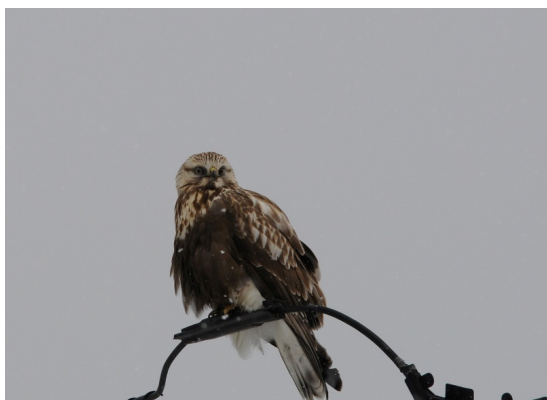


写真2. 個体A 雄・亜成鳥



写真3. 個体A 雄・亜成鳥 (朝倉克美撮影)



写真4. 個体B 雄・成鳥 (朝倉克美撮影)



写真5. 個体B 雄・成鳥 (朝倉克美撮影)



写真6. 個体C 雄・第3羽目の成鳥か (朝倉克美撮影)